

小平市在宅医療介護連携推進協議会ニュースレター

令和元年度の在宅医療介護連携推進協議会の取組のうち、市民を対象にした事業と関係者を対象にした研修をいくつかご紹介します。興味のある方、次は、是非ご参加ください。

市民セミナー 人生の終わりについて考えてみませんか 一看取りのための基礎知識一

実施：令和元年10月6日(土)午後 東部市民センター集会室 参加者 40人

NHK特集「老衰死 穏やかな最期を迎えるには」の一部分を視聴した後、訪問診療を行っている小平すすきクリニックの鈴木道明医師による講演を行いました。以下はその内容です

高齢者が人生の最期を迎える経過は、大きく分けて、がん等、心・肺疾患末期、認知症・老衰等の3つのパターンがあります。どんな経過をたどっていても、急に亡くなることがあります。また、徐々に状態が悪くなったとしてもいざという時に本人の考えを聞くことができないこともあります。

そのため、自分が希望する生活や延命治療、意思表示できないときに代わりに決めてもらう人などを本人が考えておくこと、そして、それを家族や友人など周りの人に知っておいてもらうことが大切です。この“もしもの時のための話し合い”を「人生会議（ACP）」と言います。そして、心身の状態に応じて意思は変化することがあるため、人生会議は繰り返し行うことが大切です。

命の終わりが見えてきたときに、「そのとき」まで自分が望むように安心して「生きる」ための準備や話し合いをしておきましょう。



困ったときは、医療と介護の関係者がお手伝いします。ご相談ください。

認知症フェス2019

在宅医療・介護つながるカフェ～認知症になっても大丈夫。私たちがあなたを支えます～

実施 令和元年11月16日(土)午後 福祉会館第1集会室 来場者 105人

医療と介護の関係者が市民の方とお茶を飲みながらお話しして、皆さんの不安や疑問に答えようというカフェを認知症フェス2019において開催しました。コーヒーの香りが漂う中、気軽に話げできた市民の方からも好評でした。

ミニ講座「在宅療養ってなんだろう（認知症編）」も行い、認知症で介護が必要となったときに医療と介護のサービスで行えることを具体的に紹介しました。

来場者を対象にしたアンケートで、「認知症になったとしたら、どこで最期を迎えたいですか」という質問をしたところ、皆さんの回答は、医療機関10人、介護施設19人、自宅47人、その他4人、今は決められない24人、未回答1人という結果でした。あなたはいかがですか。



体のこと、介護保険サービスのこと、認知症のこと等いろいろな話がありました。スタッフも楽しかったです。またお会いしましょう。



*認知症フェス2019では、「認知症でもそうでなくても大丈夫！～人と人がつながる街を目指して～」をテーマに、認知症に関する講演会や展示等を行いました。小平市では認知症の周知を目的とした認知症週間事業を毎年11月に行っています。認知症フェス2019も認知症週間事業の一つでした。

***市民を対象とした事業は、市報等で開催のお知らせをしています**

裏面は実施した研修の紹介です。

令和元年度の協議会は「小平で安心して 生きて、いく」のテーマのもと、『人生の最終段階～看取りを支えるために～「広げる・つながる・深める」』を目標として活動を行っています。

多職種連携研修

「ACP」を通して本人の想いを支える ～それぞれの役割と連携を考える～

実施 10月19日(土)午後 医師会館 参加者：11 職種 67人 (西地区対象)

ACPと在宅看取りについての講義の後、意思決定支援の視点から人生の最期を迎える本人と家族をどう支援するか事例をもとにグループワークを行いました。

職種ごとの視点の違いを感じながら話し合うことで、相互理解や関係者間の顔の見える関係がつけられ、実際の仕事の場面で活かされます。

今回は、軽度認知症と嚥下障害のある本人、高齢者夫婦のみ世帯、近隣市在住の娘1人の事例でした。



恒例の記念写真をパチリ！

それぞれの職種が専門性を持ちながら相互で学び合う場としてテーマ研修を企画・開催しています
<テーマ研修①>

ヘルパーのためのターミナルケア(基礎編)～看取りのケアの困りごと。一緒に考えませんか～

対象：訪問介護員

訪問看護師による講義では、在宅での看取りまでのケアとポイントについて本人の変化を踏まえながら本人と家族へのケアについて具体的な説明がありました。講義の後のグループワークでは、ターミナルケアについての不安や経験談から、訪問介護員と訪問看護がどのように連携すべきかなどの意見交換がされました。



<テーマ研修②>

終末期の食形態と摂食方法を学ぶ(実践編)

対象：歯科医師・ケアマネジャー・リハビリ職・通所介護員・訪問介護員

言語聴覚士、管理栄養士を講師に、身体機能や摂食嚥下の状態に合わせた食事介助の方法などを学びました。ベッド・車いすを使用した実技もあり、参加者からは「明日すぐに役に立つ内容だった」など好評でした。

栄養補助食品の試食も行い、実際に利用者の気持ちを体感できる研修でした。終末期の経口摂食を多職種で支えていきましょう。



今後の研修の開催予定

参加募集は各所属団体を通じて行います。

多職種連携研修 「ACP」を通して本人の想いを支える ～それぞれの役割と連携を考える～

日時：令和2年2月15日(土) 15:00～18:00

場所：東部市民センター 対象：主に東地区で活動されている医療と介護の関係者

*今回紹介した多職種研修と同じ内容です。

テーマ研修 終末期における服薬サポートを学ぶ～明日から使える知識と技術～

日時：令和2年2月1日(土) 15:00～17:00

場所：福社会館5階 市民ホール 対象：薬剤師、訪問看護師、ケアマネジャー

(発行) 令和元年12月 小平市在宅医療介護連携推進協議会

(問合せ) 小平市医師会 ☎042-343-8260 小平市高齢者支援課 ☎042-346-9847